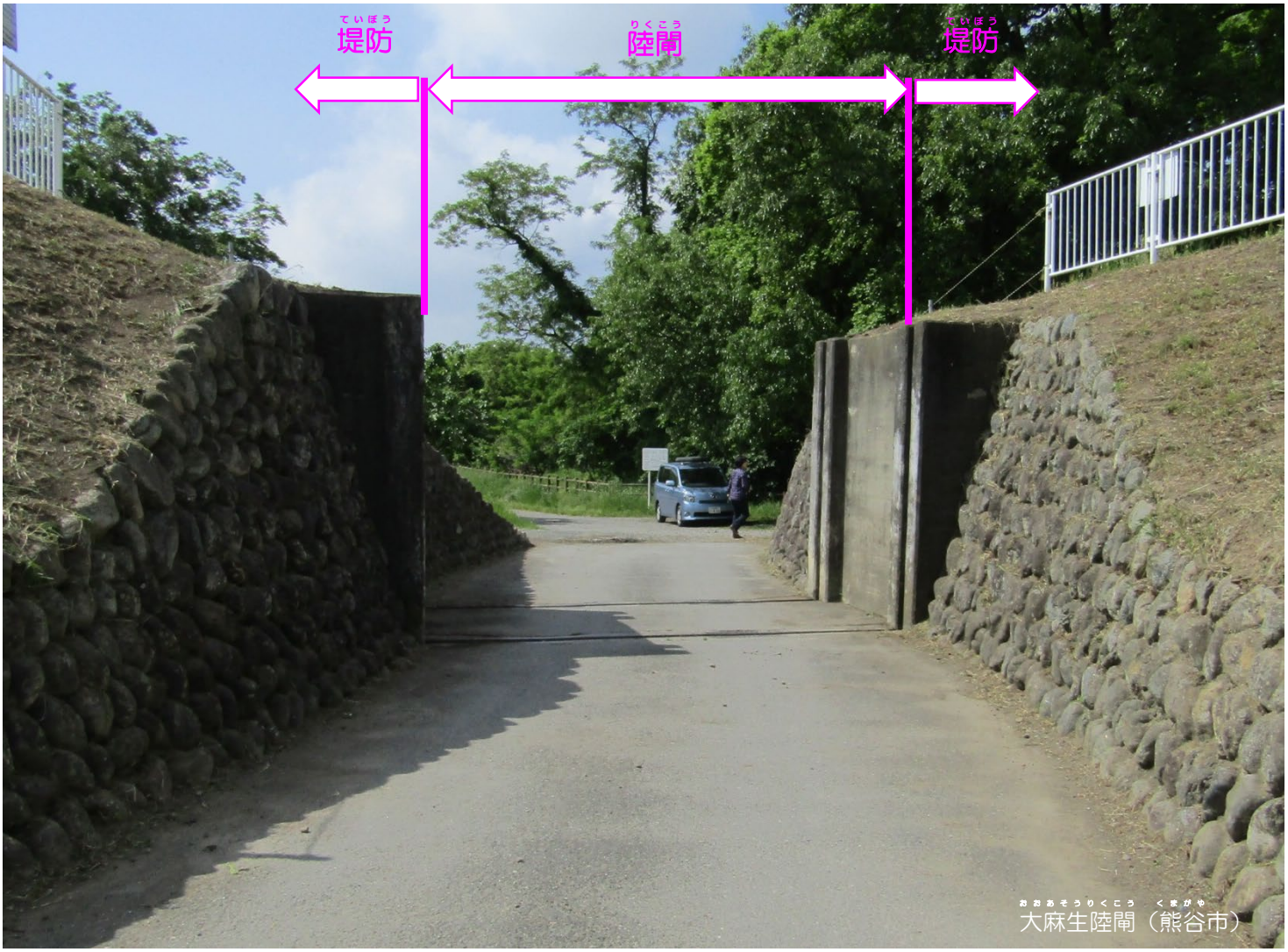
堤防の切れ目　陸閘(りくこう)　～川と人とをつなぐ施設～

砂利採取などの利用が盛んだったことから、人や車が堤防を乗り越えることなく河川敷まで行き来できるよう堤防に通路と『門』が整備されました。



大麻生陸閘（熊谷市）

大麻生陸閘周辺の荒川

ゲートを閉める訓練中の大麻生陸閘

陸閘とは

陸閘とは、堤防を切って設けられた河川への出入り口を閉鎖する門のことで、洪水の時には陸閘が閉められ堤防としての役割を果たします。荒川では、河川敷が、船着場、渡船場、砂利採取場など河川敷が盛んに利用されていた際に、堤防を乗り越えなくて済むよう堤防に切れ目を入れる形で通路が作られ、それに併せて陸閘が整備されています。陸閘により、人や車は堤防を乗り越えることなく河川敷の中に直接入ることができ、洪水時にも安全が確保されます。現在、荒川には左岸側の熊谷市に「大麻生陸閘」があります。

▶ 荒川に現存する陸閘

荒川上流の河川改修に伴い、昭和20年代後半に大麻生陸閘（熊谷市）及び貝塚陸閘（上尾市）が整備されました。また、同時期に廣瀬陸閘（熊谷市）の改築工事が行われた記録が残っており、当時荒川には大麻生・貝塚・廣瀬陸閘の3つの陸閘が存在していました。このうち、現在残っているのは大麻生陸閘のみです。

▶ 大麻生陸閘

大麻生陸閘は、熊谷大橋の上流左岸側の堤防に設けられています。1954（昭和29）年12月に当時の建設省（現国土交通省）により築造されたもので、荒川に現存する唯一の陸閘です。

高度経済成長期には、荒川の河川敷で砂利採取が盛んに行われました。秩父鉄道のひろせ野鳥の森駅と大麻生駅の間にある広瀬川原駅（貨物駅）は、元は荒川で採掘される砂利の積み出しを目的に開設された駅です。この駅に荒川の砂利を運搬するために、荒川の堤防に通路と大麻生陸閘が整備されました。

洪水時には写真に見える２列の溝に木材（「角落とし」と呼ばれます）を取り付けると堤防となります。（表面の写真参照）

大麻生陸閘

コラム 附島陸閘 ～支川にもある陸閘～

荒川の本川だけでなく、荒川の支川である越辺川の合流する飯盛川の右岸堤防にも「附島陸閘」があります。このあたりは堤防と河川（低水路）の間が比較的広く、河川と堤防の間に農地が開発されたため、河川沿いの農地への行き来を容易にするために堤防に通路と陸閘が整備されました。

洪水時に陸閘の中央にある溝に角落としを取り付けると堤防となります。

附島陸閘

アクセス

大麻生陸閘

交通：秩父鉄道「ひろせ野鳥の森駅」下車、
徒歩約11分

住所：埼玉県熊谷市大麻生

大麻生陸閘記念碑

出典　熊谷市文化財日記HP／熊谷市「ゲートを閉める訓練中の大麻生陸閘写真」／熊谷市HP